

特別支援学校中学部における スクールワイド積極的行動支援の実践

登校時に自分から先生に挨拶をする行動の指導

○永富大輔

(筑波大学人間総合科学研究科)

KEY WORDS: スクールワイド積極的行動支援、特別支援学校、自立活動

(目的)

近年の応用行動分析学では、望ましい行動を増やし QOL の向上を積極的に伸ばそうという動きがあり、特に学校における問題行動の予防に向けた組織的アプローチ(School Wide Positive Behavior Support: 以下 SWPBS; Horner, Sugai, Todd, & Lewis-Palmer, 2005)とされている。

自立活動の時間における指導内容を日常生活や各教科で自立活動の目標との密接な関連を行っていくことが求められるが(文部科学省, 2009)、特に中学部・高等部においては教科によって担当が変わったり複数の教員が指導したりすることがあるため、自立活動の目標を関連づけることは難しいとされている(今井・生川, 2013)。

本実践は特別支援学校中学部において、自立活動で指導した内容を日常生活で関連づけるためにSWPBSの理論を基に、学部全体で指導を行った。そして、学部間で実践することの効果と課題を明らかにすることを目的とした。

(方法)

対象児: X年に特別支援学校中学部に在籍し、自立活動の時間における指導でSSTを学ぶ生徒を対象とした。対象児は男子19名、女子11名であった。障害種は自閉スペクトラム障害18名、知的障害9名、癲癇1名、ADHD1名、高次機能障害1名であった。対象児の保護者に対して、指導の目的、データを学会等で公表すること、データの公表を拒否する保護者のみ提出することを紙面で説明を行った。データの公表を拒否する保護者はいなかった。

独立変数: 登校時、自分から先生に挨拶をするを従属変数とした。

従属変数: 「おはようございます」と書いた紙を提示する視覚的プロンプト、自立活動での時間における挨拶の流暢性トレーニング、挨拶をした後の言語賞賛を従属変数とした。

教材

記録の算出: 自分から挨拶をした生徒数を全ての生徒数で除し、100を乗じることで自発的挨拶行動の生起率とした。

手続き

(a)ベースライン条件: 自立活動の時間において、挨拶を自分からすることを中学部の目標にすること、挨拶をされたら相手は嬉しくなることなどを説明した。翌日から、教員は教室、玄関等で待機し、生徒が自分から挨拶したら、言語賞賛をした。

(b)視覚的プロンプト条件: 生徒が自分から挨拶をしなかった時、「おはようございます」と書いた紙を提示した。その後、挨拶をしたら言語賞賛をした。

(c)流暢性トレーニング条件: 自立活動の時間において、Microsoft PowerPoint 2007を用いて流暢性トレーニングを行なった。画面に教員の顔が出たらすぐに「おはようございます。」と言ひ、生徒の顔が出たら「おはよう。」と言うように教示した。登校時の教員の関わりはベースライン条件と同様とした。

(d)視覚的プロンプト+流暢性トレーニング条件: 視覚的プロンプト条件と流暢性トレーニング条件を同時に行なった。

(e)フォローアップ条件: 2週間後、8ヶ月後に行った。教員の生徒に対する関わりはベースライン条件と同様とした。般化刺激の検討: 中学部主事、及び養護教諭に対し自分から挨拶を行うか検討した。2名の教員はベースライン条件と同様の関わりとした。

社会的妥当性の検討: すべての実践終了後、中学部教員に対して、必要性、効果、適切性、負担度、実現性の観点で5段階のリッカート尺度で実施した。

(結果)

自発的挨拶行動の生起率をFig. 1に示した。

それぞれの平均はベースライン条件 38%、視覚的プロンプト条件 69%、流暢性トレーニング条件 64%、視覚的プロンプト+流暢性トレーニング条件 75%、2ヶ月後のフォローアップ条件 76%、8ヶ月後のフォローアップ条件 79%であった。

社会的妥当性の結果において、それぞれの項目の平均は必要性4.3点、効果4.1点、適切性3.8点、負担度3.5点、実現性2.8点であった。

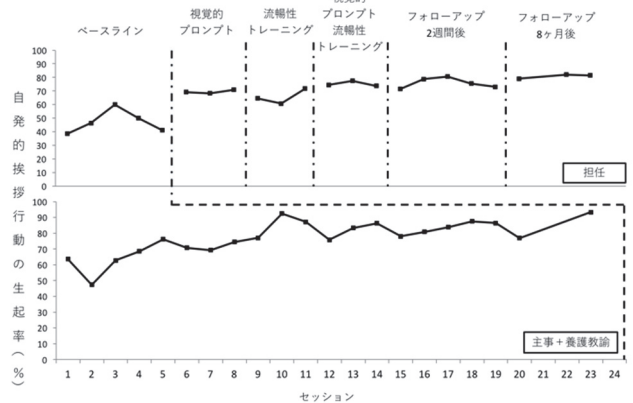


Fig. 1 自発的挨拶行動の生起率

考察

視覚的プロンプトは先行刺激として挨拶行動の弁別刺激として機能し、流暢性トレーニングでは行動の練習を行うことで行動コストを減少できたと考える。また、全ての教員が一貫した対応ができ、同級生も望ましい行動を生起する様子を見ることができたという環境の変化が挨拶行動を増やした要因として考えられる。

今後、このような学校全体での取り組みを進める教員とそれらを支える環境の構築が課題と考えられる。

(文献)

今井善之・生川善雄(2013) 知的障害特別支援学校における自立活動の現状と教員の課題意識, 千葉大学教育学部研究紀要, 61, 219-226.

Horner, R. H., Sugai, G., Todd, A. W., & Lewis-palmer, T. (2005) Schoolwide positive behavior support. In L. M. Bambara & L. Kern(Eds.), Individualized support, for students with problem behaviors: Designing positive behavior plans. Guilford Press, New York, 359-390.

文部科学省(2009) 特別支援学校学習指導要領解説自立活動編(幼稚部・小学部・中学部・高等部), 文部科学省.